

候儀ニ御坐候依テブリユナハ往復文書并委任書寫
相添此投上申候也 内務

ブリユナハ照會尾高勸業大属

此度佛國醫師雇替ニ相成候テモ給料其外ノ儀昨年
陸奥租税頭ヨリ申入候通取投異議有之間敷候ハ共
為念及御掛合候也 六月十八日 内務

同上返翰

御書翰去ル十七日正ニ落午杜拜讀仕候然レハ今般
如御問談小生儀醫師御雇替ニ付テハ元来陸奥租税
頭閣下ヨリ去ル千八百七十三年一月二十四日賜候
御書翰ノ規則ニ従ツテ小生ヨリ當三月二十八日差
出候書面ノ通り醫師マイユ一儀當五月十五日帰國
仕候ニ付當所製繻場醫師トシテビダール候名ハジ

ヤンホールルイジドールヲ再雇仕候同人儀元来佛國
醫師ニテ「カールシユルシール」佛國ヲドノ雇ニ御
坐候同人年齢四十四歳ニ御坐候於横濱佛國コンシ
ユールヨリ日本内地住居被差免候者也 於富岡千八
百七十四年
第六月 内務

富岡製繻場ハ雇入セシ外國人共ニ日本人数名
ノ為メニ歐羅巴ノ醫師一名ヲ雇入スルヲ其
首長ブリユナ氏ハ委任スル廉書

一右醫師ノ給料一个月ニ付日本金貨二百二十五圓
宛ヲブルナー氏ニ支給スハシ右金高ヲ以テ同氏
ノ適當ト思フ所ノ醫師ヲ同氏自身ニ之ヲ求メ其
姓名生國共ニ雇入ノ約條草稿共之ヲ租税頭ニ届
出テ其許可ヲ得テ雇入ルハキ事

一右金高ラブルナー氏ニ支給シタル上ハ同氏ノ權ヲ以テ現今雇入ノ醫師ヲ癸シ更ニ別人ヲ雇入ルヲアルモ勝手次第ト雖モ夫カ為メ其醫師ノ往還旅費等ハ日本政府ノ關係ナカルヘシ勿論前條ニ從ヒ新ニ雇入タル醫師ノ姓名生國英ニ雇入條約等ハ時々必ス届出スヘシ

但本文ノ金貨二百二十五圓ハ醫師製絲場ニ在任スルノ日月間ニ限リヤレハ若シ中間此醫師ヲ癸シ未タ他ノ醫師ヲ雇ルノ之ナキハ其時間ノ醫師月給タル右金高ラブルナー氏ニ支給スルヲナカルヘシ

一製絲場被我雇入人ニ用ユル藥料ニ限リ製絲場ノ公費ヲ以テ給スヘシ

一右醫師ハブルナー氏ノ權ニヨリ雇入ルヲ許スト雖モ治療未熟カ或ハ怠惰ニテ其業ヲ勉強セサレカ又ハ醫業ニ付製絲場掛リ役員ノ命ニ負クノアラハ約條期限中ト云モ日本政府ノ權ヲ以テ其雇入ノ約條ヲ破リ之ヲ癸スヘシ其時ニ於テ旅費一切渡スヲナカルヘシ

但シ醫業ノ外トイヘドモ製絲場中ニ設ケタル規則ニ違フ所行アラバ本文同様破約ノ理アルヘシ

一此醫師ヲ雇入ノ權ヲブルナー氏ニ委任スル上ハ日本政府ニ於テ同氏ヲ雇入ルヘシトテ止ムレハ同時右醫師ノ雇入モ止ムレトモアルヘシ尤政府ノ都合ニヨリ猶其以後ヲモ雇入ルヘシハ必ス

別致ノ條約ヲ取結フヘシ

一右醫師東京横濱其他ノ往還スルヲアルトモ其旅費ハ一切自費タルヘシ尤モ我政府ノ用向ニテ往還スル旅費ハ我政府ノ規則ニ従ヒ之ヲ支給スヘシ

右ノ條ノ通相心得醫師雇入ノ儀可被取計也

我明治六年

租税頭陸奥宗光

富岡町製絲場首長

ブルナー氏貴下

八月十三日

七年

富岡製絲場首長佛人ブリユナ并醫師ヲ備止メントス
尋テ満期マテ備置ク

内務省上申

上州富岡製絲場ノ儀ハ明治五年開業以來上好ノ生絲ヲ製出シ其品位ハ坤輿中第二等ヲ降ラサルノ公評ヲ得候程ニテ大ニ皇國物産ノ聲價ヲ進メ其開業ノ効驗ハ歴カラス候ヘ共此迄場中ノ費用兎角ニ相嵩ミ刺ヘ職工ノ缺員多ク生繭購集方充ルニ行届兼候邊ヨリ或ハ間断ナキ能ハスシテ未メ器械ノ全カヲ盡シ得ス此ヲ以テ其所得所失ヲ償ハス素ヨリ勸奨ノ御注意ヲ以テ創業相成候儀ニテ強テ目前ノ利益ヲ計較候答ニハ無之候ヘ共職工感勤ノ儀ハ專